どんぐりの森通信　第20号　2011年4月

巨大地震、大津波、そして原発事故と、日本中が震撼させられた２０１１年の３月でした。報道で知る被災地の惨状と、今も避難生活を続ける被災者の窮状に胸痛む毎日ですが、こんな年でも春は確実にやってきています。被災地に咲く桜が、少しでもその地に暮らす方々の慰めになってくれることを祈りつつ、春のどんぐりの森通信第２０号をお届けします。

『平岡どんぐりの森』は、地域の自然に親しむ活動をしているグループです。平岡公園や東部緑地をフィールドに自然観察会を開催したり、地域の生きもの調査や保護活動をしています。

❖❖ 2010年秋～2011年春の活動報告 ❖❖

ながぐつの土ようび

平岡公園管理事務所と平岡どんぐりの森が共催する親子参加型の自然観察会です。草花や樹木、鳥や虫などの生きものを観察しながら、自然豊かな平岡公園を探検して歩きます。今年の５月～１０月までは毎月第２土曜日の１０時に平岡公園第一駐車場に集合で、申し込みは不要です。参加者は小学生の親子が中心ですが、大人だけの参加も歓迎です。

４月１６日（土）とび出せ！春の森たんけんたい

毎年４月のながぐつの土ようびは、たくさんの参加者で超満員の探検隊になるのですが、今日は冷たい雨模様の空のせいか出足が鈍く、探検隊長の*ゆうさん*もちょっと心配顔。でも出発前には雨も上がり、ながぐつをはいた元気な子供たちと保護者・スタッフ総勢３７名で春を見つけようと、張り切って出発しました。

産卵したばかりの**エゾアカガエル**の卵塊をそっと手に取って、子ども達は大喜び。重たい！固い！プルプルだ！と感想はさまざまです。「おたまじゃくしになるのはいつ？」「何を食べて大きくなるの？」「お母さんガエルはどこに行ったの？」と、ボランティアのお兄さんお姉さ　ん達は質問攻めになりました。

湿地には早くも**ミズバショウ**と**ザゼンソウ**が咲きはじめ、**フキノトウ**もあちこちに顔を出していました。春はすぐそこまで来ています。

平岡公園ツリーウオッチング

平岡公園内の樹木を中心にした観察会です。５月～１１月の第二水曜日午前１０時に第一駐車場集合。どなたでも参加できます。四季を通じた定点観察で自然の移り変わりを楽しみながら、ちょっと樹木のお勉強もしてみましょう。厳冬期にはスノーシューで雪の森にも入ります。

２月９日（水）　スノーシューで雪の森を散歩　（参加者９名）

よく晴れた青空の下、雪の森を歩くのは気分爽快です。

積雪期にしか入れない森の奥では、雪の上に**エゾユキウサギ**のくっきりした足跡が！「ここでＵターンして、跳んでいったのね。」「このへんでは、ずいぶんのんびり歩いているね。」と、足跡からウサギの行動を推理。木の根元に消えている小さな足跡は**エゾヤチネズミ**でしょうか？**キタキツネ**に追われたのかな？カラマツ林では、**クマゲラ**の新しい食痕も見つかり、色々楽しい発見の多い一日でした。

❖❖❖ 2010年秋～2011年春の活動報告 その2 ❖❖❖

冬の平岡公園にぎわいフェスタ

１月９日（土）　平岡公園　　参加者７３名

好天に恵まれた冬休みの１日、スノーウェアで身支度した子供たちや大勢の親子連れの参加者でにぎわった平岡公園です。

広場でスノーキャンドル作りを楽しんでから、スノーシューをはいて雪の森を一回りしました。名物の平岡公園特製お汁粉は今年も「おいしい！」。体が温まったところで、元気な子供たちは外で雪遊びです。雪山のすべり台は大盛況。大学生のお兄さんお姉さんと一緒に、かまくら作りもしました。暗くなってからスノーキャンドルに点灯すると、オレンジ色の灯がきれい！トトロの雪像もニッコリ笑っているようでした。

水辺の生きものたちは、今…

―　札幌新道延長工事に向けて―

２０１０年に再開された札幌新道の延長工事に伴い、予定地周辺の貴重種の植物・水辺の生きものの保護が急がれます。平岡どんぐりの森では２００２年に、新道予定地周辺の自然環境を保全してほしいという要望書を札幌市に提出しています。工事の各段階で市との話し合いをしてきましたが、昨年の工事再開にあたり、改めて要望書を元に協議事項を確認し、今後も引き続き環境保全に向けて協議していくことにしました。

昨年度は環境調査の過程で見つかった**ニホンザリガニ**の移動と、希少種の**サルメンエビネ**、**ヤマシャクヤク**、**トケンラン**の移植を市と協力しておこないました。

8 月 9 日　トケンランの移植
9 月 21 日　ザリガニ調査と一部の移動
10 月 16 日　サルメンエビネ、ヤマシャクヤク、トケンランの移植とニホンザリガニの移動

植物の移植はできるだけ影響の少ない時期を選んで２回に分けて行い、根元周囲の土も一緒に運び出す等、できる限りダメージを与えないように配慮しましたが、移植した場所で今後しっかりと根付いて花を咲かせてくれるかどうか確証はありません。まだ試行錯誤の部分が多いので、今後も長い目で見守っていきたいと思います。

ザリガニの沢では、２，３年前から数が激減して心配していたのですが、２０１０年９月の調査で、中流域で２４匹が見つかり、回復の兆しが見えました。１０月には新道工事で消滅する３か所の沢・湿地から２００匹近いザリガニをレスキューし、安全な場所に移動しました。今後の様子を注意深く見守りたいと思います。

エゾホトケドジョウの池周辺は、２，３年後に工事が予定されています。工事期間中、今生息しているエゾホトケをどこに移動させるか、生息場所をどう確保するか等、課題は持ち越されています。

アオサギ営巣地（平岡コロニー）の調査　　2010 年 11 月 13 日

イオンショッピングセンター裏の森にアオサギが営巣を始めたのが１９９７年でした。当時は北海道拓殖銀行の保養所だったので「たくぎんの森」と呼んでいました。その後イオン平岡ショッピングセンターの建設が始まり、アオサギ営巣地の存続が心配されましたが、（株）イオンのご理解を得て営巣地のカラマツ林は現状で保全され、毎年１００を超える営巣があり、多数のアオサギがここから巣立っています。

営巣地は現在立ち入り禁止になっており敷地の外からは分かりにくいので、コロニーの状況を見るために許可を得て、営巣数調査を行いました。　２００２年の調査以来、８年ぶりです。北海道アオサギ研究会代表の松長克利さんをリーダーとして、平岡どんぐりの森のメンバーや、酪農大学の先生と学生さん達など総勢１９名でコロニー内の巣の数をカウントしました。

以下、松長さんの調査報告から要旨を一部紹介します。

＊＊平岡コロニーの調査報告より＊＊　　北海道アオサギ研究会代表　松長克利

コロニーの規模は以前に比べずいぶん小さくなったようです。巣の数は合計 164 巣で、痕跡 26 個を入れても 200 に届きません。2002 年の調査では 266 巣が確認されていますから 8 年で 4 割近い減少です。一方、コロニーの面積は 6,028 ㎡で 8 年前とそれほど変わっていませんでした。また、前回はコロニー全体がカラマツ林内に収まっていたのに対し、今回はその南に広がる広葉樹林にも範囲が拡大していました。利用営巣木はカラマツが主で、カラマツとトドマツは以前に比べて枯死木が多くなっているようでした。

平岡コロニーで営巣数が減少した原因のひとつとして、一部のアオサギが江別へ移り住んだ可能性が考えられます。両コロニーは地理的には多少離れていますが、機能面では相互に依存しており、おそらくアオサギの行き来も頻繁にあるはずです。いわばコロニー連合のようなものとみて良いでしょう。

両コロニーは同じ野幌の母体から生まれた双子のコロニーです。そして、今後もしばらくの間は、両者同規模の営巣数を保ったまま併存する可能性が高いと思われます。かつて野幌コロニーは、石狩地域のアオサギ個体数を調整する機能をもっていたと考えられます。野幌コロニーが消滅した今、この役割を担えるのは平岡・江別両コロニーを置いて他にありません。石狩地域のアオサギ個体群全体を保全するためには、このふたつのコロニーを存続させることが極めて重要なのです。

（＊調査報告の詳細は北海道アオサギ研究会のホームページ　http://www.greyheron.org/　の活動記録のページをご覧ください。）

小学校環境教育への協力

●清田小学校　3 学年総合学習「清田緑地のよいところを探そう」　２月１６日

季節を通して、清田緑地を観察している子どもたち。2 月はカンジキ初体験。スノーシュー（西洋カンジキ）をはいて雪の森を歩き、冬芽や木肌、木々の様子を観察しました。カンジキは履くのがちょっと難しく、どんぐりのメンバーがお手伝いしました。すぐ近くに、こんなにいろいろな顔を見せてくれる緑地を発見できて、ラッキーだったね！

●平岡公園小『ふれあい空間』　１０月２日

「ガマの葉っぱで作ろう」

平岡公園の人工湿地で自生しているガマの葉を利用して親子でコースター作りに挑戦しました。

葉っぱの色や形を考えながら組んでいきます。たこ糸で周りを編んで出来上がり。慣れてくると簡単にできます。小さな子どもたちも上手にできました。

ニセアカシアの本当のこと

平岡どんぐりの森　　杉本泰子（札幌市西区在住）

ニセアカシアが“要注意外来生物”に指定されていることをご存じですか。

繁殖力が強く、在来生物の生存をおびやかしていると環境省が認定している樹木なのです。

札幌には約 120 年前に街路樹としてもちこまれました。そして今年、札幌駅前通りに新たに 100 本のニセアカシアが街路樹として植えられる予定です。

とても残念です。札幌の顔である駅前通りにニセアカシアが植えられるということは、「要注意外来生物」というメッセージがなかなか伝わらないのではと危惧しているからです。

ニセアカシア：

北海道樹木図鑑（亜璃西社）より

北海道の開発に大きく寄与してきた外来種はニセアカシア以外にもポプラ、プラタナス、ライラック、銀杏などたくさんありますが、なぜ、ニセアカシアだけが問題なのでしょうか？

成長が早く、薪としても便利、蜂蜜の原料、炭鉱の坑道の枠としても重宝がられ、実にたくさんのニセアカシアが植樹されてきました。しかし、エネルギーの変化、生活スタイルの変化にともない利用されなくなった現実があり、、森や林の手入れはおろそかになり、荒れてきています。 この 10 年で平岡公園の中にも東部緑地にも多くの野生化したニセアカシアが目立ってきました。

なぜこのように繁殖できるのか？マメ科で荒れ地にも実に良く順応し、水平根から萌芽可能なため、野生化したニセアカシアの林があちこちに出現しています。特に雪堆積場の河川敷きや空き地、近隣の山々、藻岩山の麓も円山の原生林もじわじわと侵略されてきているのです。実は除排雪という、人間が快適に都市生活を営むためにおこなってきた活動が、このニセアカシアの繁殖にどうも多いにかかわっているらしいのです。科学的には立証されていませんが、冬季間も樹上に常に種が残存し、機会があれば道路の雪といっしょに盤渓の山々、豊平川や東部緑地の雪捨て場に運ばれた結果、ニセアカシアが繁茂しているのです。

また一度萌芽した根は切っても切っても生き続けて萌芽し続けるというしつこさ（駆除の大変さ）、さらに他の植物の成育を妨げるような物質を出すため（アエロパシー）、多くの生物たちを押しのけ続けて成長しているのです。

これから、新緑の美しい季節になりますね。外に出かける機会も増えてきますが、高速道路の壁面などほとんどがニセアカシアの林になっていることに気付くことでしょう。

人間の無責任な開発行為を実にうまく利用しているのがニセアカシアかもしれません。

昨年 10 月名古屋市でおこなわれた COP10、人間が持続可能な社会を続けるためには生物多様性が大きなキーポイントと叫んでいたことが遠い昔の出来事のような気がします。環境、環境と叫んでいた政治も選挙に負けると雇用、雇用に変わり、3 月 11 日の東日本大震災以降は、国中が何から手をつけていいかわからなくなっています。

これから復興をめざさなければならないとき、この生物多様性に配慮した“まちつくり“はとても重要なことではないでしょうか。将来のリスクを矮小化し、原発は大丈夫、大丈夫と言ってきた専門家や行政。同じ生物種ばかりになってしまう前に何とかしようよ、と発信しても、大丈夫、大丈夫という行政。目先の利益に惑わされず、次の世代に引き継ぐべきものの大切さを考える時だと思います。我々一人一人何が大切かを考えて行動していく時かなと、同時に、次の世代に生物の豊かさと共に生きる喜びを伝えていきたいと、どんぐりの活動はまちがっていないと強く思っています。

発行　**平岡どんぐりの森**　（代表　荒井美和子）

〒004-0033　札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目12－8

tel. fax　011－896－0058

ホームページ　http://dongurinomori.web.fc2.com/